

- (18)尾崎 茂：国際保健からみた薬物乱用の現況とわが国の対応－精神病院からみた現状－。日本アルコール・薬物医学会雑誌39(1)：35-40, 2004.
- (19)尾崎 茂：物質依存の時代変遷と現状。精神科治療学19(11)：1289-1296, 2004.
- (20)庄司正実：薬物乱用・依存－児童自立支援施設からみた現状－。こころの科学 2003：111：28-32
- (21)庄司正実, 妹尾栄一, 富田拓, 有園博子：入所非行児の薬物乱用の実態。日本アルコール・薬物医学会雑誌 2004：39：41-45
- (22)庄司正実：青少年の薬物乱用について。心と社会 117：25-30, 2004.
- (23)庄司正実：児童自立支援施設入所児童の有機溶剤乱用に対する態度およびその他非行の現状－1998年から2002年の児童自立支援施設薬物乱用調査－。目白大学心理カウンセリングセンター紀要2：3-11, 2004.
- (24)森田展彰, 根本透, 和田清, 末次幸子, 岡坂昌子：サンフランシスコにおける薬物依存者に対する治療共同体の研究（I）－プログラムの概要および日本の医療・自助グループとの相違について－, 日本アルコール・薬物医学会雑誌38（5）440-453, 2003.
- (25)森田展彰, 根本透, 和田清, 末次幸子, 岡坂昌子：サンフランシスコにおける薬物依存者に対する治療共同体の研究（I）－プログラムの概要および日本の医療・自助グループとの相違について－, 日本アルコール・薬物医学会雑誌 38：440-453, 2003.
- (26)森田展彰：薬物依存症に対する心理社会的治療－セルフヘルプ型のケアと心理教育プログラムの統合について－, 精神科治療学19:1395-1404, 2004.
- (27)平林直次, 行岡哲男：国際保健からみた薬物乱用の現状とわが国の対応－救命救急センターからみた現状。日本アルコール・薬物医学会雑誌 39(1)：46-50, 2004.
- (28)宮永 耕：「薬物依存からの回復 DARCについて」、こころの科学Vol.111特別企画 薬物乱用・依存、日本評論社、2003.9、pp.79-85
- (29)宮永 耕：物質依存者のための治療共同体－アメリカモデルについて－精神科治療学 19：1411-1418, 2004
- ### 3. 学会発表
- (1) 和田 清, 菊池安希子, 中野良吾, 尾崎 茂：住民調査及び中学生調査から見た現状。第38回日本アルコール・薬物医学会。メインシンポジウム1（市民公開講座2）「国際保健からみた薬物乱用の現況とわが国の対応」。高輪プリンス（東京）, 2003.7.4.
- (2) 和田 清：分科会5-話題提供者-「中学生の飲酒と家族・仲間」。第26回日本アルコール関連問題学会。名古屋。2004.7.9.
- (3) 高橋伸彰, 和田 清：飲酒経験からみた中学生における薬物乱用行為に対する認識の違い。第39回日本アルコール。薬物医学会。八王子。2004.9.9.
- (4) 尾崎 茂：精神病院からみた現状。第38回日本アルコール・薬物医学会。メインシンポジウム1（市民公開講座2）「国際保健からみた薬物乱用の現況とわが国の対応」。高輪プリンス（東京）, 2003.7.4.
- (5) 尾崎 茂, 和田 清：Severity of Dependence Scale (SDS)の有用性について。第39回日本アルコール・薬物医学会。ポスターシンポジウム1「精神医学」。2004.9.9日。八王子学園都市センター。
- (6) 庄司正実, 妹尾栄一, 富田拓, 有園博子：入所非行児の薬物乱用の実態。第38回日本アルコール・薬物医学会。メインシンポジウム1（市民公開講座2）「国際保健からみた薬物乱用の現況とわが国の対応」。高輪プリンス（東京）, 2003.7.4.
- (7) 平林直次, 行岡哲男：救命救急センターからみた現状。第38回日本アルコール・薬物医学会。メインシンポジウム1（市民公開講座2）「国際保健からみた薬物乱用の現況とわが国の対応」。高輪プリンス（東京）, 2003.7.4.
- (8) 森田展彰：分科会「認知行動療法」。第26回日本アルコール関連問題学会, 2004.7.9.

(別掲4)

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体 編集者名	書籍名	出版社 名	出版地	出版 年	ペー ジ
和田 清	第12章 薬物乱用・依存.	大塚 譲、 河原和夫、 倉田忠男、 富永典子	スタンダード 栄養・食物シ リーズ 1: 人 と健康	東京化 学同人	東京	2003	96 -102

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻	ページ	出版 年
和田 清	物乱用・依存の現と鍵概念	こころの科学	111	14-21	2003
和田 清	IV. 物質関連精神障 . 精神作用物 質関精神障害 概論.	別冊 日本臨床 領域別症候群シリー ズ40		474-479	2003
和田 清	依存性薬物乱用者・精神病の最近 の疫学的動向	臨床精神薬理	6	1111 -1119	2003
和田 清、菊 池安希子、鈴 木紀美子	社会精神医学的研究：疫学的調査 研究の重要性－薬物使用に関する 全国住民調査を例に－	日本アルコール精神 医学雑誌	10	19-26	2003
和田 清	一般人口における薬物乱用・依存 の実態把握	精神保健研究	49	17-22	2003
和田 清、菊 池安希子、中 野良吾、尾崎 茂	国際保健からみた薬物乱用の現状 とわが国の対応－住民調査及び中 学生調査からみた現状.	日本アルコール・薬 物医学会雑誌	39	28-34	2004
和田 清	有機溶剤吸引の入り口としての喫 煙：1994年千葉県中学生調査よ り.	学校保健研究	45	512-527	2004
Hirabayashi, N., Wada, K., Kimura, T. et al.	Prevalence of Substance Abuse among Patients with Physical Diseases Seen in an Emergency Room in Japan.	The American Journal on Addictions	13	398-404	2004
和田 清	医療モデルの違いとしての精神作 用物質依存症治療	精神科治療学	19	1281 -1287	2004
和田 清	論説 喫煙、飲酒、薬物乱用の実 態と教育における対応	中等教育資料	823	20-25	2004
和田 清	薬物乱用の実態と傾向について.	厚生労働	59	17-20	2004
和田 清 尾崎 茂	連載 心の健康に関するお役立ち 情報 最終回. 各職種が情報を共 有し効果的な薬物乱用防止策を!	公衆衛生情報	64	42-45	2004
尾崎 茂	薬物依存症の最近の動向	精神科	28	205-212	2003
尾崎 茂	メチルフェニデート関連精神障害	別冊 日本臨床		522-526	

		精神医学症候群Ⅲ			2003
尾崎 茂	有機溶剤依存症の治療に関する提言	臨床精神薬理	6	1169 -1176	2003
尾崎 茂	薬物乱用・依存の現状－精神科医療施設からみた現状－	こころの科学	111	22-27	2003
尾崎 茂	全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査	精神保健研究	49	23-27	2003
尾崎 茂	国際保健からみた薬物乱用の現状とわが国の対応－精神病院からみた現状.	日本アルコール・薬物医学会雑誌	39	35-40	2004
尾崎 茂	物質依存の時代変遷と現状	精神科治療学	19	1289 -1296	2004
庄司正実	薬物乱用・依存－児童自立支援施設からみた現状－	こころの科学	111	28-32	2003
庄司正実、妹尾栄一、富田拓、有園博子	国際保健からみた薬物乱用の現状とわが国の対応－入所非行児の薬物乱用の実態	日本アルコール・薬物医学会雑誌	39	41-45	2004
庄司正実	青少年の薬物乱用について	心と社会	117	25-30	2004
庄司正実	児童自立支援施設入所児童の有機溶剤乱用に対する態度およびその他非行の現状－1998年から2002年の児童自立支援施設薬物乱用調査－	目白大学心理カウンセリングセンター紀要		3-11	
森田展彰、根本透、和田清、末次幸子、岡坂昌子	サンフランシスコにおける薬物依存者に対する治療共同体の研究（Ⅰ）－プログラムの概要および日本の医療・自助グループとの相違について－	日本アルコール・薬物医学会雑誌	38	440-453	2003
森田展彰	薬物依存症に対する心理社会的治療－セルフヘルプ型のケアと心理教育プログラムの統合について－	精神科治療学.	19	1395 -1404	2004
平林直次、行岡哲男	国際保健からみた薬物乱用の現状とわが国の対応－救命救急センターからみた現状－生物学的方法を用いた薬物乱用の実態調査－	日本アルコール・薬物医学会雑誌	39	46-50	2004
宮永 耕	薬物依存からの回復 DARCについて	こころの科学	111	79-85	2003
宮永 耕	物質依存者のための治療共同体－アメリカモデルについて－8	精神科治療学	19	1411 -1418	2004
石橋正彦	薬物依存症の医療経済に関する研究	九州神経精神医学	49	10-19	2003

平成15～16年度厚生労働科学研究費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)

薬物乱用・依存の実態と
その社会的影響・対策に関する研究
(H15-医薬-007, H16-医薬-062)

平成15～16年度
総合研究報告書

主任研究者：和田 清（国立精神・神経センター 精神保健研究所）

2005年3月31日 発行